

1 4. 藪内の時計塔

所在地 福島市大町9-22

●時計塔の概要

・「『唐物の店』立身屋で知られた藪内宇兵衛の末弟弓五郎が、東京の時計商京屋伊和造のもとで時計技術を修行し、帰郷して新築開店したもので、明治21年（同22年説もある）といわれる。工費約2,300円と伝えられるが、設計や建築担当者は明らかでない。」

・「時計塔の本体は、地上7m弱の宝形型瓦葺屋根の中央に、方2mの露盤状の台を設けて建てられた。高さ2.39m、幅1.72mの長方形で、その四面に丸く時計の文字板をはめこみ、時打装置は本体の上に四脚に八角錐の屋根を付けた全町3.15mからなり、さらに1.1mの避雷針を立てていた。」（注1）

・「明治の時計塔は全国で59塔を数えられているが、藪内の塔は34番目の建設で、その時計は明治6年建設（この年の工学大学について二番目）の横浜の妓楼岩亀楼のものを譲り受けたものといわれる。」（注1）

●解体

・昭和48年（1973）店舗改築のため解体。福島市有形文化財指定解除

【注】

1. 「福島文化」福島市史別巻Ⅶ 1989

【参考文献】

1. 「福島市文化財調査報告書 第2集」福島市教育委員会 1975



昭和30年地図の位置



藪内の時計塔 *